

令和5年度 学校園評価シート

学校園名	加古川市立浜の宮幼稚園
------	-------------

1 教育目標 生き生きと遊び込み、心豊かに育ち合う仲間づくり

2 基本方針
 明るく伸び伸びと行動し十分に心と身体を動かすと共に、基本的な生活習慣を養い身体諸機能の調和的発達を図る。
 自然の中でいろいろな遊びを通して、発見したり感動したり工夫したり確かめたりする。
 友達と一緒に遊び生活する中で、我慢することや自分でやろうとする意欲を育てる。
 友達を思いやり、やさしい気持ちを大切に作る。
 絵本や童話に親しみ、豊かな感性と様々な表現力の芽生えを養う。

3 指導目標

健康で明るい子	豊かに感じ、素直に表現する子	思いやりのある心やさしい子
粘り強く考え、意欲をもって行動できる子	良いこと悪いことのけじめがわかる子	

評価基準

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策
①健康な心と身体を育てる。	◎元気に挨拶をする。 ◎規則正しい生活を送ることができる。 ◎自分で身の回りのことをしようとする。 ◎体を動かして遊ぶことを楽しむ。	A	・挨拶は、登降園時に門やテラスで全職員が働きかけることで習慣づいてきた。「自分から進んで」「誰にでも」できるよう保護者も巻き込んで意識付けしていきたい。 ・規則正しい生活については家庭との連携が必須となる。保護者には学習の基盤となることを伝えていく。 ・身辺整理や排泄などは、個々に応じた関わりや見守りを心がけたことで、自分でしようとする意欲が高まった。 ・教師も一緒に遊ぶ機会を増やすことで、体を動かして遊ぶ幼児が増えた。竹馬、パカポコ、縄跳び、マラソンなど、少し難しいことにも挑戦できるように、到達度が見て分かるようなカードを用意したことで、目的をもち継続して取り組むことができた。

自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
・朝、幼稚園の近くを通ると元気な挨拶の声が聞こえる。 ・挨拶やしつけなどは園だけでは難しい。家庭の力が大きく、その大切さを伝えるためにも働きかけを継続してほしい。	A

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策
②豊かな体験を通して、主体的に活動できる子どもを育てる。	◎季節や時期を感じる遊びを楽しむ。 ◎自分の考えや思いを伝える。 ◎人の話を聞こうとするようになる。 ◎やってみようという気持ち、意欲が育つ。	B	・教師の働きかけにより、家庭も巻き込んで生き物や植物等に興味をもち、四季を感じながら遊ぶことができた。 ・自分の思いを伝えにくい幼児が安心して話せるように雰囲気や場づくりを意識して関わり、自分の思いを伝えようとする幼児の姿が増えた。 ・担任の話は聞くが、それ以外の人や場では聞くことが苦手な子が多い点は課題である。聞く態度や望ましい姿勢をしっかりと伝え、誰の話も聞けるように指導に努めたい。言葉だけで理解しにくい幼児に対して、見て分かるような視覚支援も今後増やしていく必要がある。 ・子どもの姿から興味や関心をしっかりと把握し、発達に応じた遊びが意欲的に取り組めるように職員間で話し合いを常にしたり、教材研究に努めたりした。
③家庭、地域との連携から多様な関係を築き、親育ち子育ての場として開かれた幼稚園づくりを推進する。	◎いろいろな人に親しみを感じ、関わりが深まるような機会をもつ。 ◎友達との関わりで成長が感じられる。	A	・地域の方々（お芋ほり、児童文庫、お茶席）や保育園・小学校と定期的に関わりをもつことができ、いろいろな方に支えられていると感じられる機会となった。今後も継続していただけるように努力していきたい。 ・園児数が少ないこともあり、園全体での遊びの機会を増やした。異年齢との関わりも濃く、年少児への優しさや年長児へのあこがれなどの気持ちが育っている。
④人権教育、特別支援教育の充実を図る。	◎友達や周りの人を思いやる気持ちを育むことができたか。 ◎幼児理解に努め、個々に寄り添った保育を心掛けることができたか。	B	・多様な幼児の姿が見られるが、今年度は園児数の少なさからも、教師がゆったりと関わりをもつことができた。教師間で幼児について話し合い、個々の特性や発達を読み取る力を養うこと、対応策を考え共有することが、今後より必要になる。 ・職員間で情報交換や指導について話し合う機会を日常的にもつことで、担任だけでなく全職員で関わり、園全体で育てる意識をもち取り組むことができた。
⑤教師一人一人の専門性を高め、資質向上を図るとともに人としての権利意識の向上を図る。	◎進んで研修等に参加し、資質の向上に努めている。 ◎子ども達の遊ぶ姿や育ちを、様々な方法でわかりやすく伝えている。 ◎子ども達のために意欲的に教育活動に取り組んでいる。	B	・コロナ後研修で学ぶ機会も増えた。研修後の情報共有の徹底により、さらなる向上につなげたい。 ・面談や日々の会話、掲示物やホームページなどを通して、保護者に園での活動や行事の様子についての発信は積極的に行っているが、遊びの中で育つ力や学びについては十分に伝えられていない。保護者に分かりやすいように「伝える力」を身に付ける必要がある。 ・職員は「子ども達のために何ができるか」という思いを強く持ち、日々の教育の振り返りに努めた。気軽にお互いの保育を見合えるような体制づくりが必要である。

自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
・いつも子ども達の元気がよい。幼稚園での活動が楽しく、充実しているのだと思う。 ・劇遊びの様子を見ても、セリフを忘れていた友達にそっと教えたり、並ぶスペースを隣の子がさっと空けたりして、自然と友達のことを気遣う姿が見られた。自分達で考えることが、この小さい年齢でよく身につけている。	A
・芋ほりなどで園児との距離が近くなり、園に来ると子ども達から親しく声をかけられ嬉しく思う。また地域が協力できる活動があれば言うて欲しい。	A
・欠点はすぐ目につくが、長所や良さを見つけることは難しい。だが個々に寄り添うためには、先生方の責任は大きい。 ・保護者アンケートの園への満足度からも一人一人をよく見て指導されていることが分かる。	B
・子ども達にいつも一生懸命に教育・保育をしていることが、子ども達の元気よさや笑顔、行事での保護者の様子を見ていてもよく分かる。 ・これからも地域の子どものために頑張っていきたい。	A